

令和7年度 第59回九州地区特別支援教育研究連盟大会「長崎大会」
第1分科会 各教科等の指導（小学校段階）

令和7/6/3 県特研総会プレ発表

児童一人一人の 学びのつながりを大切にした 授業づくり

佐賀県立伊万里特別支援学校 教諭 山口 美里
教諭 松井 亜里更

発表の流れ

1. はじめに
2. 研究の目的
3. 研究の方法
4. 授業づくりに向けた取り組み
5. 授業づくりの実際
6. まとめ

1.はじめに

佐賀県立伊万里特別支援学校



【校訓】

明るく 素直に 元気よく たくましく

小学部	40名	
中学部	26名	
高等部	49名	計115名

令和7年度学校要覧より



佐賀県HPより

2. 研究の目的

【全校研究主題】

「児童生徒が主体的に活動し、
やりがいを感じることができる学校生活づくり」

～資質・能力の育成を目指した
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり～

2. 研究の目的

小学部研究テーマ

「自分から活動に取り組み、
仲間と共に楽しく学ぶ授業づくり」

児童が何を学ぶのか
児童にどのような力を育んでいくのか

主体的
対話的で
深い学び

児童一人一人の学びを大切にした授業づくり

2. 研究の目的

本校の教育課程

(知的障害 通常の学級/重複障害学級 5年)

各教科等を合わせた指導

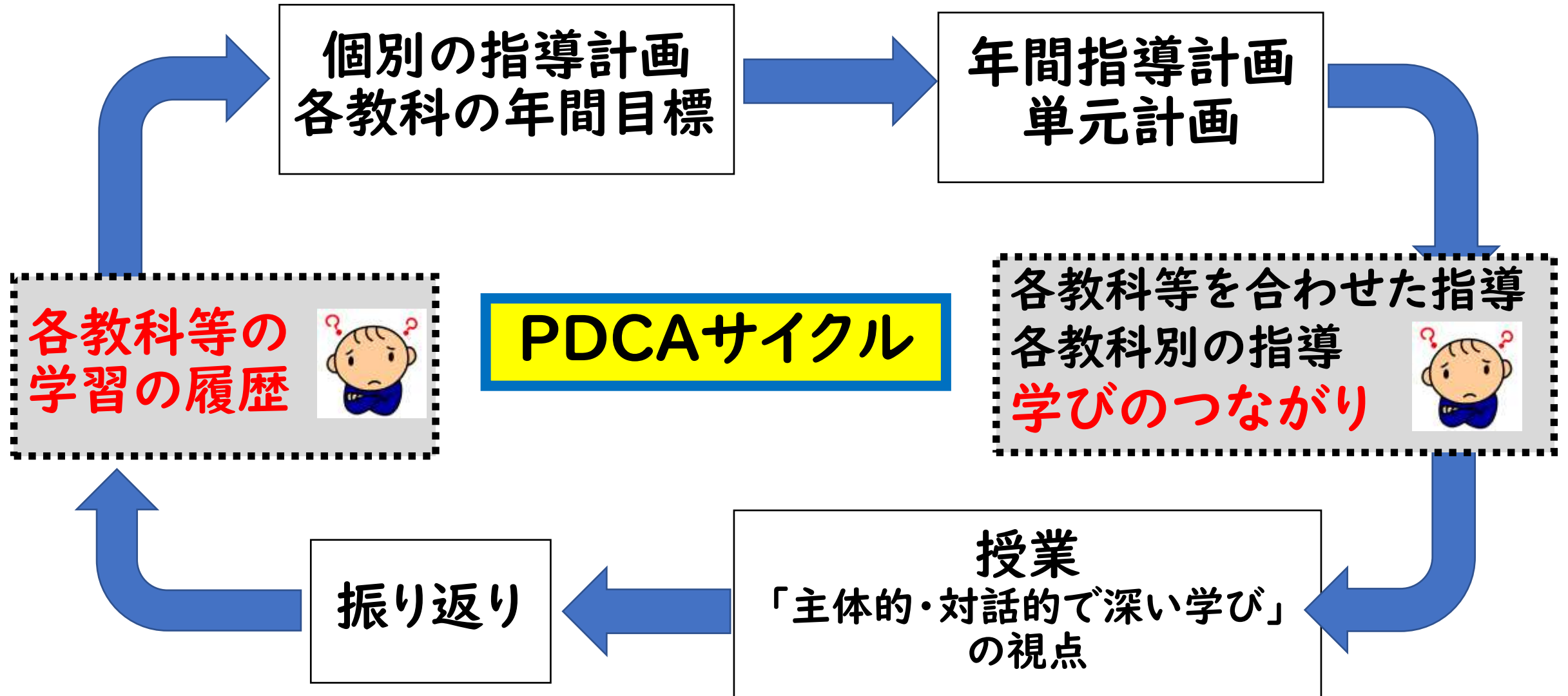
各教科別の指導

校時	開始時刻	月	火	水	木	金
	8:50	健康観察				
1	9:00	日常生活の指導				
	9:35	国語・算数／自立活動				
2	10:20	体育(なかよし広場)				
3	10:50	生活単元学習/遊びの指導				
4						
	12:30	給食・昼休み				
5	13:30	日常生活の指導	図画工作	図画工作	音楽	日常生活の指導
6	14:20	帰りの会 下校 14:20	日常生活の指導			帰りの会 下校 14:20

帰りの会 下校 15:15

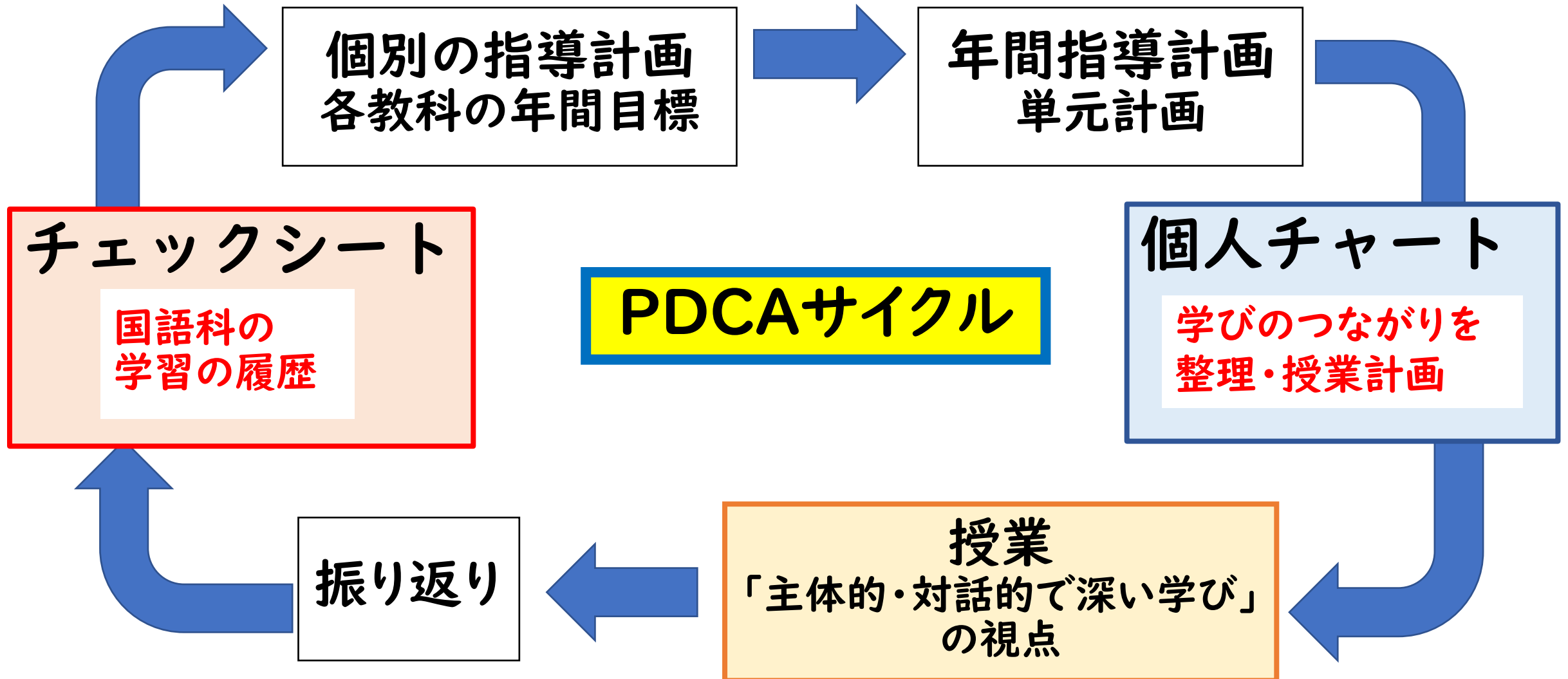
2. 研究の目的

～これまでの授業づくり～

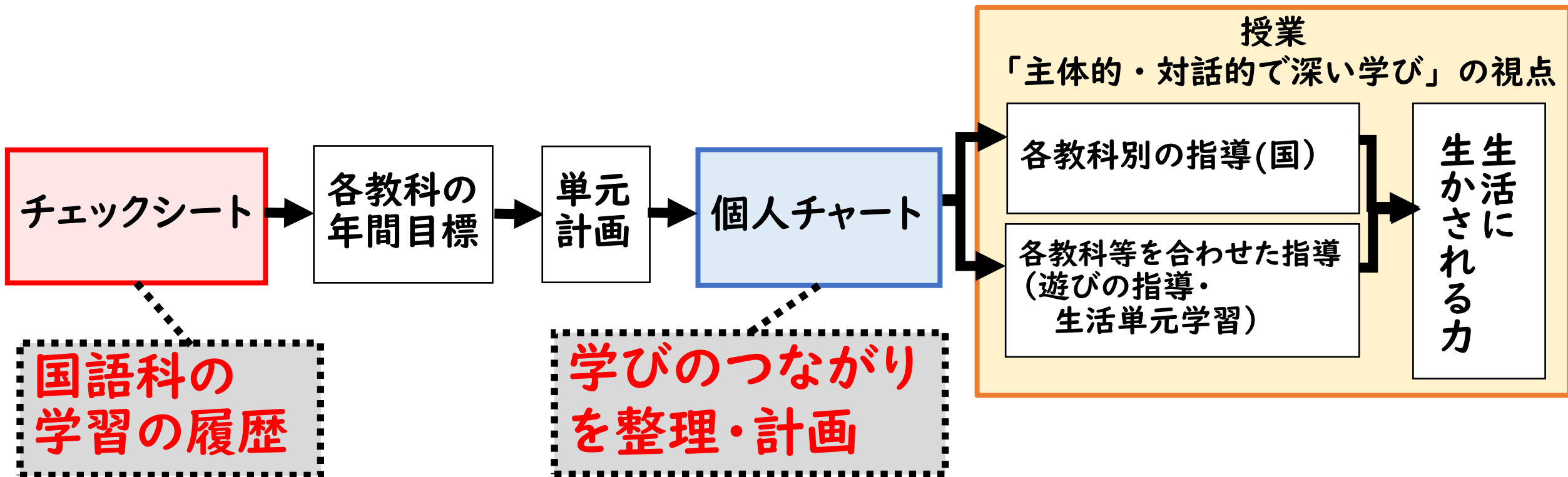


2. 研究の目的

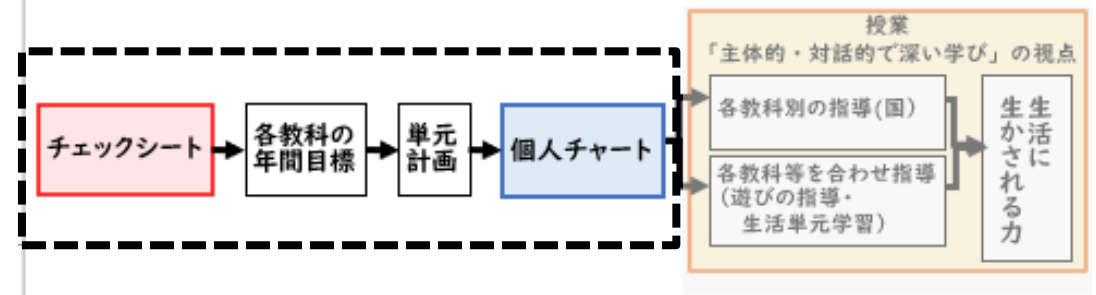
～（新）授業づくり～



3. 研究の方法



4. 授業づくりに向けた取り組み



- (1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修
- (2) チェックシートによる学習の履歴の整理
- (3) 個人チャートの作成
- (4) 個人チャートを活用した授業づくり
- (5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4.授業づくりに向けた取り組み

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

(2) チェックシートによる学習の履歴の整理

(3) 個人チャートの作成

(4) 個人チャートを活用した授業づくり

(5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4-(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

①外部講師による講演

「各教科等別の指導と各教科等を合わせた指導のつながり」



4-(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

②グループワーク

「各教科等を合わせた指導の単元目標を各教科の視点で分析」



4-(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

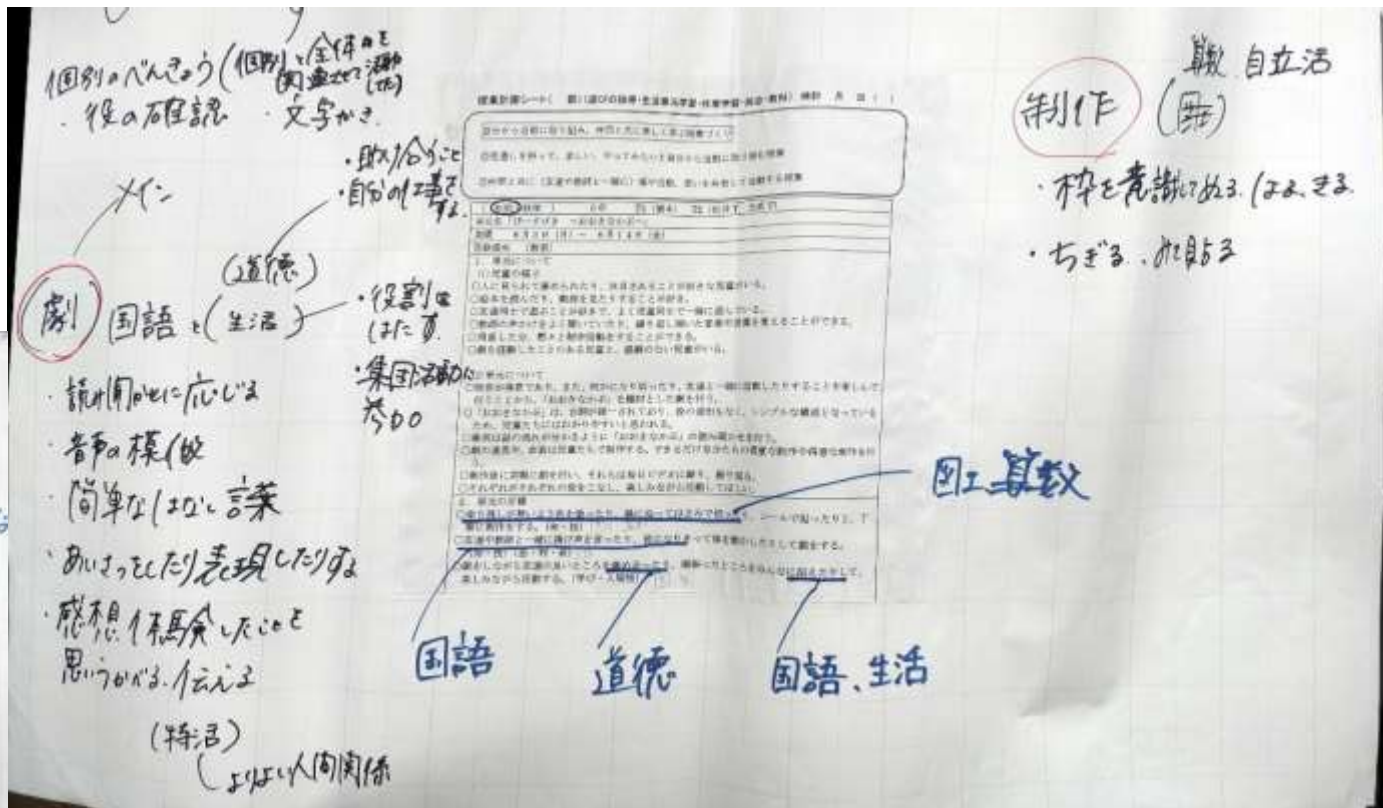
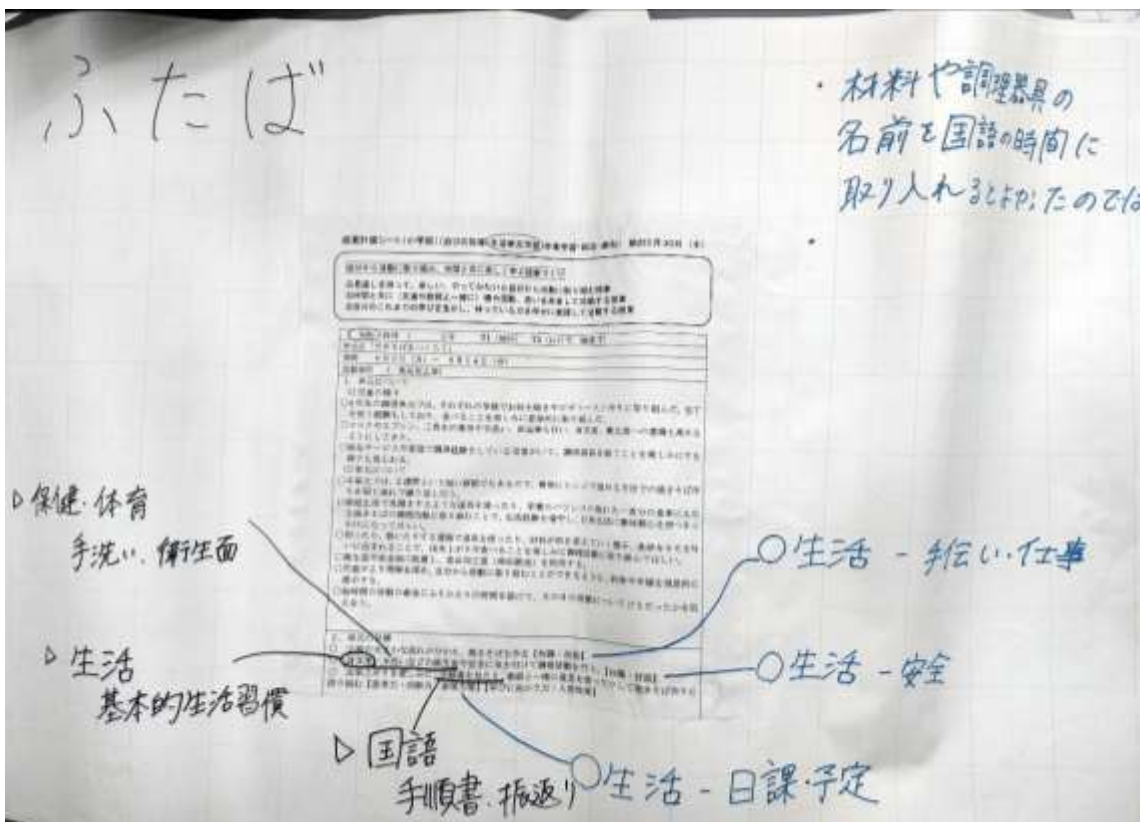
研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ



4-(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

考察

○学びのつながりを意識するようになった

○学習指導要領を見ることが増えた

○学級で教科の話題が増えた

●授業計画シートの課題



4.授業づくりに向けた取り組み

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

(1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修

(2) チェックシートによる学習の履歴の整理

(3) 個人チャートの作成

(4) 個人チャートを活用した授業づくり

(5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4- (2) チェックシートによる学習の履歴の整理



	国語		年	名前 ()		
三つの柱	項目	指導内容 (…指導する)	段階	指導内容	できた○ 継続中△	備考
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	小1段階	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。		
			小1段階	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。		
			小2段階	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。		
			小2段階	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。		
			小2段階	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。		
			小3段階	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。		
			小3段階	(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。		
			小3段階	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。		
			小3段階	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。		
			小3段階	(オ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。		
			小3段階	(カ) 正しい姿勢で音読すること。		
			小1段階	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。		
			小1段階	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。		
			小1段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。		
			小1段階	(カ) 書くことに必要な姿勢や道具の扱い方を学ぶこと。		

国語科の学習履歴

4- (2) チェックシートによる学習の履歴の整理

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

一部拡大

国語	項目	指導内容（指導する）	段階	指導内容	できるとの観察点	備考
知識及び技能	ア 言葉の性質や使い方に着目して、言葉の働きや関係などについて考えることができる。	ア 言葉の性質や使い方に着目して、言葉の働きや関係などについて考えることができる。	小1段階	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小2段階	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや態度を表していることを理解すること。		
			小2段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小3段階	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや態度を表していることを理解すること。		
			小3段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小3段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小3段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小3段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
			小3段階	(イ) 言葉のつくりやリズムに慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れさせること。		
言語文化	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
			小1段階	(イ) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを理解すること。		
読者の意識	イ 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。	イ 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。	小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		
			小1段階	(イ) 読者の意識や感情に共感し、その感情や態度に共感すること。		

イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

小1段階	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。		1、ももたろう、うらしまたろう
小1段階	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。		
小1段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。		
小1段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。		
小1段階	(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。		1、キャラクターの本
小2段階	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。		
小2段階	(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。		
小2段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。		1、ペンで直線・曲線
小2段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。 (エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。		
小3段階	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。		
小3段階	(イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。		
小1段階	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。		1、自分や友達の名前
小1段階	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。		

4-（2）チェックシートによる学習の履歴の整理



考察

国語		年 名前（ ）		
三つの柱	項目	指導内容（一指導する）	指導内容	できた○ 継続や△
知識及び技能	ア 言葉の持つ力やリズムに敏感になり、言葉が表す事物やイメージに敏感になること。	小1 読解	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを意識すること。	
		小1 読解	(イ) 言葉のもつ音やリズムに敏感になり、言葉が表す事物やイメージに敏感になること。	
		小2 読解	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	
		小2 読解	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	△ 1、自分や友達の名前
		小2 読解	(イ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に敏感になること。	
		小3 読解	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物語の内容を表す働きがあることに気付くこと。	
		小3 読解	(イ) 物語やひらがなを付けて話すこと。	
		小3 読解	(イ) 日常生活でよく使う形容、動詞などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を覚えること。	
		小3 読解	(イ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	
		小3 読解	(イ) 文の中における主語と述語との関係や疑問の言い方により、意味が変わることを知る。	
		小3 読解	(イ) 正しい姿勢で書くこと。	
		小3 読解	(イ) 音読などについて、読み聞かせを聞くなどして楽しむこと。	△ 1、ももたろう、うらしまたろう
知識及び技能	イ 我が国の言語文化を継承すること。	小1 読解	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに敏感になること。	
		小1 読解	(イ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆記具を用いて、書くこと。 ② 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ③ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	
		小1 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	△ 1、キャラクターの本
		小2 読解	(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に敏感になること。	
		小2 読解	(イ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆記具を用いて、書くこと。 ② 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ③ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	△ 1、ペンで直線・曲線
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
		小2 読解	(イ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。 ① 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ② 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。 ③ 音読や音読の歌などを読み聞かせを聞くこと。	
思考力、判断力、表現力等	ア 言葉の持つ力やリズムに敏感になり、言葉が表す事物やイメージに敏感になること。	小1 読解	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを意識すること。	△ 1、自分や友達の名前
		小1 読解	(イ) 言葉のもつ音やリズムに敏感になり、言葉が表す事物やイメージに敏感になること。	
		小2 読解	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	
		小2 読解	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	
		小2 読解	(イ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に敏感になること。	
		小3 読解	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物語の内容を表す働きがあることに気付くこと。	
		小3 読解	(イ) 物語やひらがなを付けて話すこと。	
		小3 読解	(イ) 日常生活でよく使う形容、動詞などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を覚えること。	
		小3 読解	(イ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	
		小3 読解	(イ) 文の中における主語と述語との関係や疑問の言い方により、意味が変わることを知る。	
		小3 読解	(イ) 正しい姿勢で書くこと。	
		小3 読解	(イ) 音読などについて、読み聞かせを聞くなどして楽しむこと。	

○指導内容が可視化できた

○個別の指導計画の目標設定の参考になった

○引継ぎ資料、新担任の見取りの参考になった

4.授業づくりに向けた取り組み

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

- (1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修
- (2) チェックシートによる学習の履歴の整理
- (3) 個人チャートの作成
- (4) 個人チャートを活用した授業づくり
- (5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4- (3) 個人チャートの作成



個人チャート①		小学部	課程	年	名前 ()	
		国語科内容			国語科年間目標	
		4	5	6	7	9
国語科 (教科別の指導)						
○ ☆ 生活 遊び 単元 の 学習 指導・	単元名					
	国語科の内容					

4-(3) 個人チャートの作成

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

個人チャート①		小学部	課程	年	名前()	
国語科内容 国語科年間目標 個別の指導計画						
		4	5	6	7	9
国語科 (教科別の指導)						
○ ☆ 生活 遊びの指導・ 単元学習	単元名 国語科の内容					

4-(3) 個人チャートの作成

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

個人チャート①

小学部

課程

年

名前()

国語科内容

国語科年間目標

個別の指導計画
(目標)

4

5

6

7

9

国語科
(教科別の指導)

授業計画へ
(いつ、どのような内容を取り扱うか)

○ ☆
生活 遊び
単元 の指導
学習 ・

単元名

国語科の内容

個人チャート (例)

個人チャート(後期)		小学部	A課程	年	名前()			
国語科内容			国語科年間目標					
(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。			○5, 6年生程度の漢字を読んだり書いたりする。					
(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。			○身近な人との会話の中で相手の要求を理解することができる。					
カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。			○自分の思いや用件を伝えることができる。					
(イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。			○助詞の使い方が分かり正しく使うことができる。					
		10	11	12	1	2	3	
国語科 (教科別の指導)		○チラシを書く。 ○修了証を書く。	○持ち物リストを確認する。	○メッセージカードを書く。 ○予約表を書いて渡す。	○チラシを書く。	○チラシ書き。 ○チラシ配り。 ○予約の受付。 ○お礼状	○メッセージカードを書く。	○手紙を書く。
		○漢字 ○日記						
○ ☆ 生活単元学習	単元名	☆遊び	○おでかけ	○制作	○お楽しみ会	○調理	○プレゼント	○アルバム
	国語科の内容	○やり取りしながら遊ぶ。 ○身近な人を誘って遊ぶ。	○店員さんとのやり取り。	○手順書を読む。 ○メッセージカードを書く。 ○決められた言葉を言いながらプレゼントを渡す。	○手順書を読む。 ○司会をする。 ○パソコンでローマ字打ちをし、パワーポイントを作成する。	○手順書を読む。 ○お客さんとのやり取り。	○手順書を読む。 ○決められた言葉を言いながらプレゼントを渡す。	○手順書を読む。 ○アルバムのコメントを書く。
・めあてシート、振り返りシートの記入。・振り返りの発表。								

4-(3) 個人チャートの作成

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き続き

考察

年間計画個人チャート①		小学部	課程	年	名前 ()	
国語科内容			国語科年間目標			
		4	5	6	7	9
国語科 (教科別の指導)						
○ ☆ 生 遊 活 び 単 の 元 指 学 導 習 ・	単元名 国語科の内容					

○内容の整理ができた

○内容の精選ができた

○授業の工夫点が出てきた

○一定期間継続した支援ができた

●活用への課題

4.授業づくりに向けた取り組み

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

- (1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修
- (2) チェックシートによる学習の履歴の整理
- (3) 個人チャートの作成
- (4) 個人チャートを活用した授業づくり
- (5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4-(4) 個人チャートを活用した授業づくり

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

小学部全学級での取り組み（12月）

学級名	授業	単元名
知1, 2年	生活単元学習	おたのしみかいをしよう
知3年	生活単元学習	のびのび☆はっぴょうかい
知4年	生活単元学習	きらきらカレンダー2025
知5年1組	生活単元学習	おたのしみかいをしよう
知5年2組	生活単元学習	ピーすげき～ももたろう～
知6年	生活単元学習	お楽しみ会を成功させよう
肢3年(D課程)	総合的な学習の時間	すがたを変える大豆のひみつをさぐろう
肢3, 4年(E1課程)	生活単元学習	ハッピークリスマス
肢1, 3, 6年(E2課程)	生活単元学習	絵本の扉を開いてみよう

4-(4) 個人チャートを活用した授業づくり

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

計画段階

扱う内容やつながりを意識

個人チャートを活用

考察



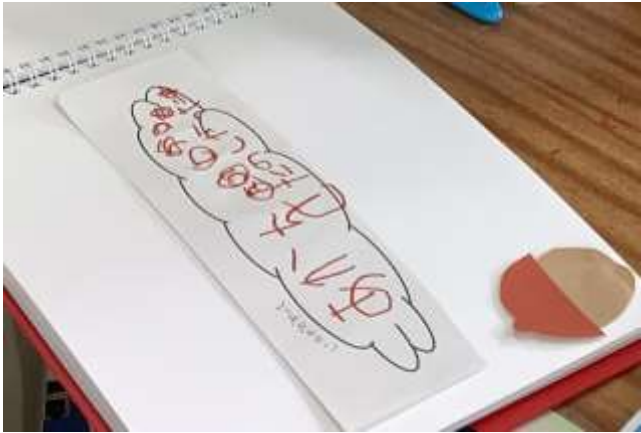
授業づくりに生かすことができた



学習指導要領のどの段階を扱っているのかを共有できた



4- (4) 個人チャートを活用した授業づくり



子どもの変化

考察

(2年生)
感想発表に繰り返し取
り組んだ



短文での発表ができ
るようになった

(3年生)
読む、書くの活動に継
続して取り組んだ



文章の構成が理解で
き写真のコメントを自
分で考えて書くことが
できるようになった

(6年生)
学習の振り返りの内
容を考え、発表する活
動に繰り返し取り組
んだ



帰りの会の発表でも出
来事や気持ちを詳しく
伝えることができるよ
うになった

めあてカード

なまえ ()

★今日がんばりたいもの

【アイロンがけ】【ミシン】【メッセージカード(しゅう)】【メッセージカード(メッセージ書き)】
【メッセージカード(もっふはり)】【ラッピングぶくろづくり】【ラッピング】

★ふりかえり

今日ぼくが(わたしが)がんばったのは

_____です。

がんばりポイントは

_____です。

4. 授業づくりに向けた取り組み

研修

チェックシート

個人チャート

授業実践

引き継ぎ

- (1) 各教科別の指導と各教科等を合わせた指導についての研修
- (2) チェックシートによる学びの履歴の整理
- (3) 個人チャートの作成
- (4) 個人チャートを活用した授業づくり
- (5) チェックシートを用いた引き継ぎ

4-(5) チェックシートを用いた引き継ぎ

引き継ぎ

一部拡大

[illegible]

小1段階	① 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。		
小1段階	(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。		1、キャラクターの本
小2段階	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。		
小2段階	(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。		
小2段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。	 	1、ペンで直線・曲線 2、鉛筆で平仮名
小2段階	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。		
小2段階	(エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。		
小3段階	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。		
小3段階	(イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。		
小1段階	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	 	1、自分や友達の名前 2、物の名前
小1段階	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。		
小1段階	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。		2、楽しかったことをカードや身振りで伝える。
小2段階	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。		

4ー(5) チェックシートを用いた引き継ぎ



考察

国語		年 名前()		
三つの柱	項目	指導内容(指導する)	段階	指導内容
知識及び技能	ア 言葉の機能や使い方を理解する。	ア 言葉の機能や使い方を理解する。	小1段階	(7)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が「事物の内容を表していること」を感じること。
			小1段階	(4)言葉の「つづき」やリズムに触れたり、言葉が「表す事物やイメージ」に触れたりすること。
			小2段階	(7)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が「気持ちや要求を表していること」を感じること。
			小2段階	(4)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。
			小2段階	(5)身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。
			小3段階	(7)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には「物事の内容を表す働き」があることに気付くこと。
			小3段階	(4)姿勢や口調に気を付けて話すこと。
			小3段階	(5)日常生活でよく使う漢字、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。
			小3段階	(4)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。
			小3段階	(4)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。
			小3段階	(4)正しい姿勢で音読すること。
知識及び技能	イ 我が国の言語文化について理解する。	イ 我が国の言語文化について理解する。	小1段階	(7)音読などについて、読み聞かせを聞くなどして楽しむこと。
			小1段階	(4)遊びを通して、言葉の「つづき」を楽しむこと。
			小1段階	(5)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆跡に慣れ、書くことを知る。 ② 書くことに必要な道具を準備し使うこと。
			小1段階	(4)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。
			小2段階	(7)音読や表読の音読などの読み聞かせを聞いた時、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の「つづき」やリズムに触れること。
			小2段階	(4)遊びややり取りを通して、言葉による表現に慣れること。
			小2段階	(5)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ① いろいろな筆跡に慣れ、書くことを知る。 ② 書くことに必要な道具を準備し使うこと。
			小2段階	(4)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。
			小3段階	(7)物語の始めと終わりと、情報と情報との関係について理解すること。
			小3段階	(4)図画を用いた調べ方を理解し使うこと。
情報の使い	イ 我が国の言語文化について理解する。	イ 我が国の言語文化について理解する。	小1段階	ア 教師の話し掛けや読み聞かせに反応し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な読み言葉などで表現したりすること。
			小1段階	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、反応で答えたりすること。
			小1段階	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。
			小2段階	ア 身近な人の話し掛けに慣れ、簡単な事柄や語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。
			小2段階	イ 簡単な指示や説明を読み、その指示等に反応した行動をすること。

○見取りの参考になった

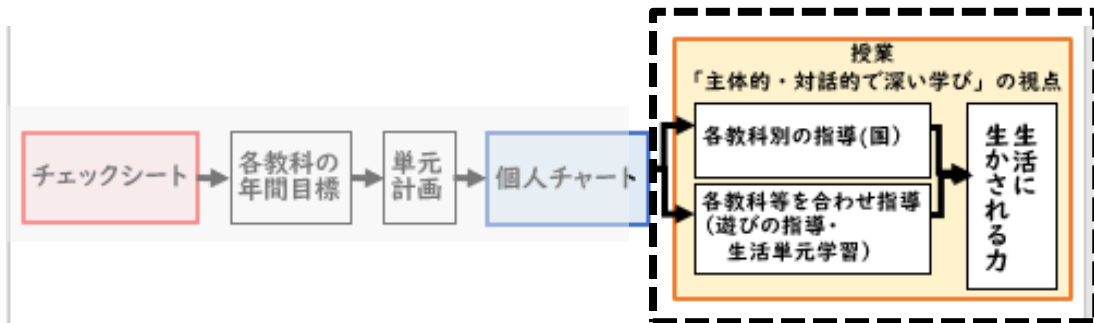
○年間目標の設定がしやすくなった

↓

○チェックシートを用いた引き継ぎは有効

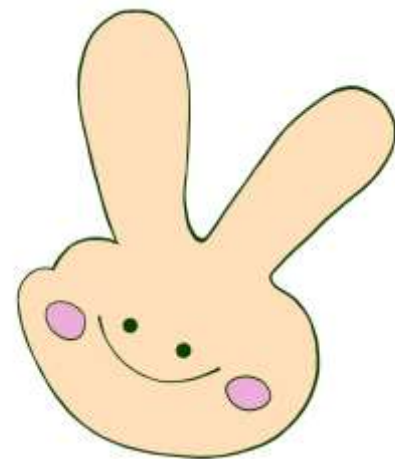
○子どもの学びをつなげる有効なツール

5. 授業づくりの実際



～「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくり～

小学部知的障害課程 5年生（5名）



6月「ぴーすげき～おおきなかぶ～」

「うんとこしょ どっこいしょ まだまだかぶはぬけません。」

繰り返しの
台詞



1 2月「ぴーすげき～ももたろう～」



2 場面に分けた

ももたろう誕生
まで

鬼退治をする
まで

一人 2 役



単元の目標

○友達や教師と一緒に「ももたろう」の台詞を言ったり、動作化したりして、楽しんで活動に取り組む。

（知・技）（学び・人間性）

○自分のよいところに気づき、がんばったところなどをみんなに伝える。（思・判・表）

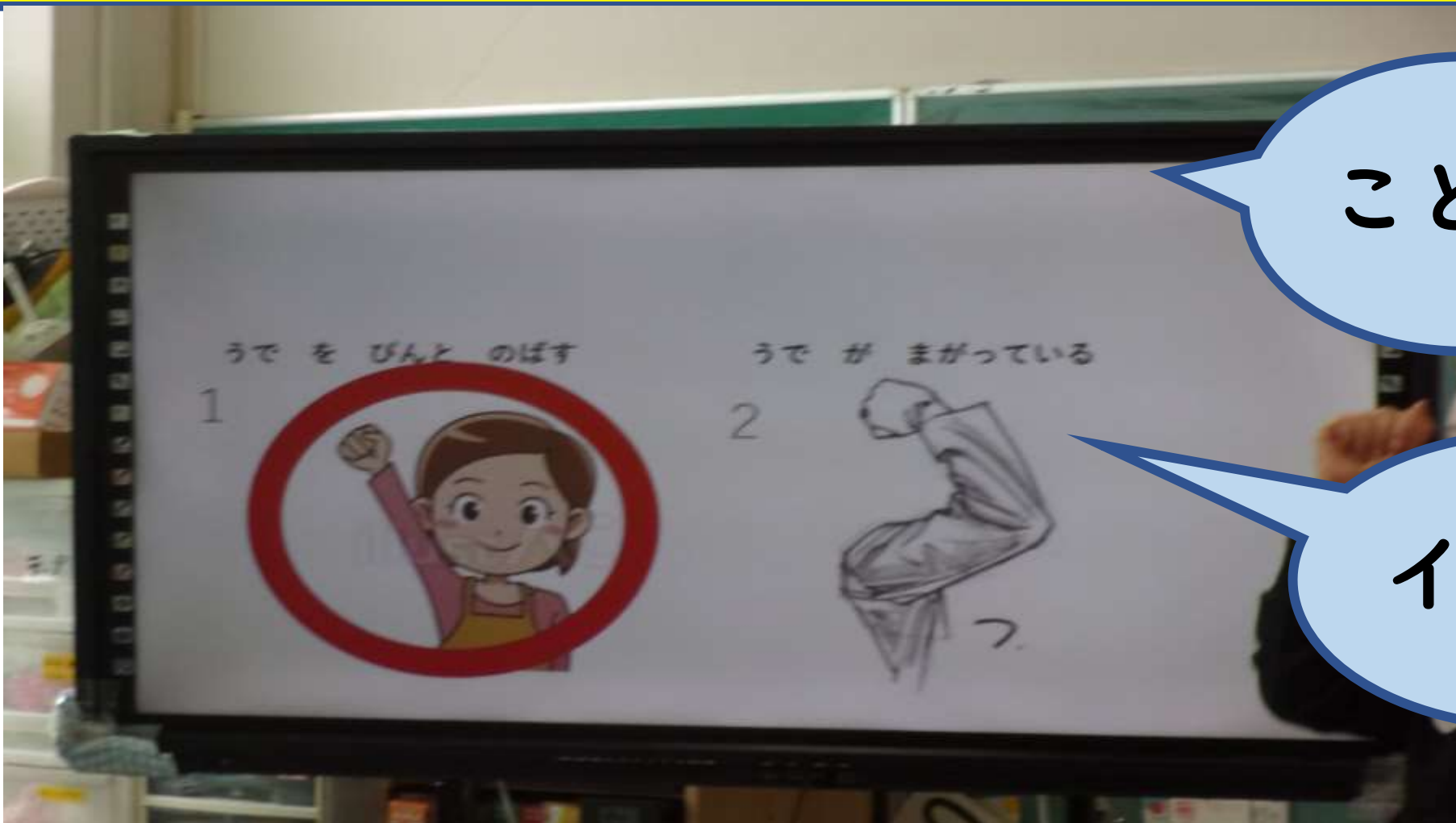
○役を分担して、発表会に向けてみんなで力を合わせて、成功させようとする。（学び・人間性）

	知識及び技能	思考、判断、表現力等	学びに向かう力、人間性等
国語	・ 教師の問いかけに応じ、登場人物を言ったり、文字を見て読んだりする。 (2段階)	・ 劇の見本を見て、自分なりに真似をして台詞を言ったりする中で、言葉や表現に慣れる。 (2段階) ・ 振り返りの場面で、イラストや写真を手掛かりに、伝えたいことを思い浮かべ、それらを用いて伝える。 (1段階) ・ 振り返りの場面で、映像や写真などを手掛かりにして体験したことを思い出したり、思い浮かべた事柄や思いを言葉と一致させたりして発表する。(2段階)	・ 相手に届くような声の大きさを伝えようとする。 (1段階) ・ 「ももたろう」を演じる中で、言葉でのやり取りを聞いたり、動作で表したりするなどして楽しむ。(2段階)

①教師が演じた劇を毎回、視聴



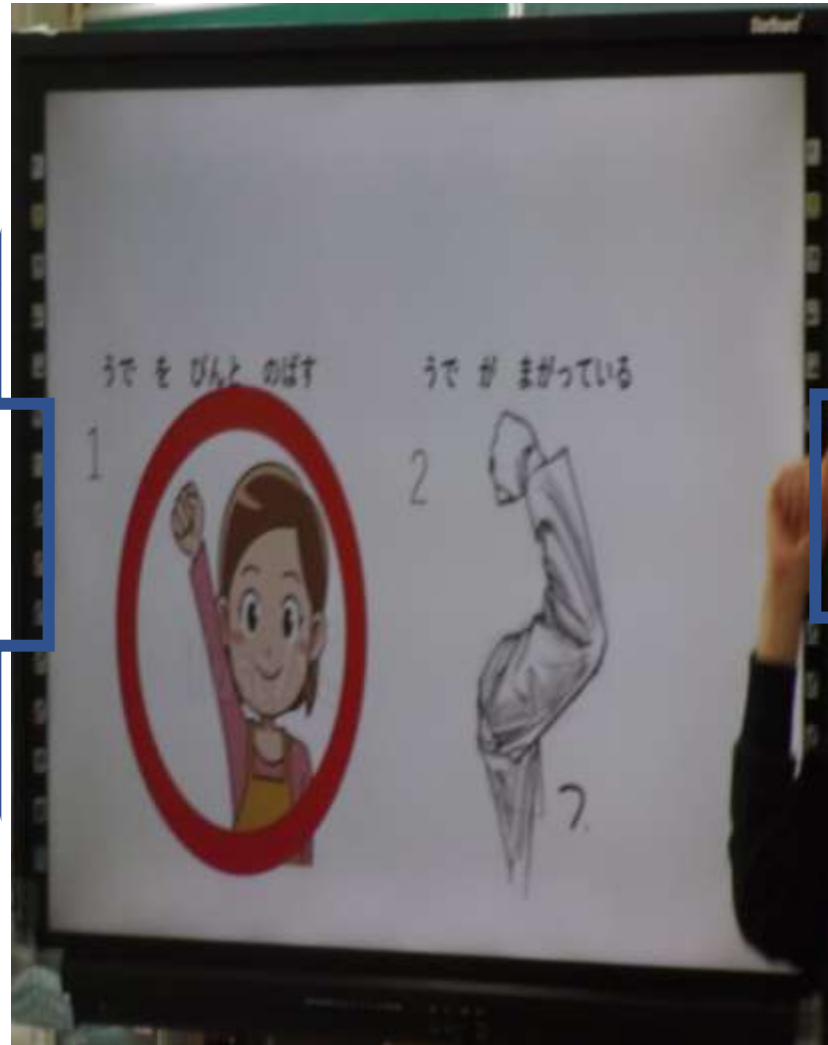
②めあての提示



子ども

- ・ 演じるときに、どう演じたらよいかわかった。

- ・ 振り返りの動画を視聴するときの視点が分かりやすくなり、自分の良さに気づききっかけになった。



教師

- ・ 具体的な言葉かけがしやすくなった。

- ・ 振り返りの動画を視聴するときにめあてを意識した言葉かけがしやすくなった。

③演じた劇を見ながら振り返り

手立て

- ・できていたところをすぐにフードバックする。
- ・子どもの気持ちを想像して言葉を添える。
- ・できたところを褒める。



結果

- ・個人の振り返りにつながった。
- ・自信をもって発表することにつながった。

④ふりかえりボード



役

場面

ぼくは やくをしました。

ところが
 です。

気持ち

場面

教師による手本写真

イラスト



児童が実際に演じている写真



⑤家族や友だち、先生方を招待



招待状の制作



招待状を届ける

A児の個人チャートと
それを活用した実際の授業、活動との
関連について

個人チャート		小学部	A課程	5年	名前(Aさん)		
国語科内容				国語科年間目標			
(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。				・平仮名、片仮名で書かれた身近なものの名前を読む			
(ウ) 書くことに関する次の事項を 理解し使うこと。 ① 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。				・視写して書字をする。			
ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。				・振り返りで接続詞を使い詳しく伝える。			
オ 相手に伝わるよう、発音や声 の大きさに気を付けること。				・相手に伝わる声の大きさを意識して発表する。			
		10	11	12	1	2	3
国語科 (教科別の指導)		・振り返りで接続詞を2つ以上使って発表する。					
		・相手に伝わる声の大きさを意識して発表する。					
○ ☆ 生 遊 活 び 単 の 元 指 学 導 習 ・	単元名	○おでかけ	○調理	○劇	☆冬遊び・お正月遊び	○制作	○調理
	国語科の内容	・説明を聞き、行先やすることを知る。 ・行先が分かる ・行先やすることを書く。 ・公共施設で相手に聞こえる大ききさで挨拶する。	・手順書の簡単な言葉を読む ・使う材料や道具の名前を知る。	・簡単な説明を理解し活動に参加する。 ・使う材料や道具の名前を知る ・物語のあらすじをつかむ。 ・台詞を読んだり聞いたりする。 ・場面に応じた台詞を考える。 ・定型文に合わせて当てはまる言葉を選んで発表する。	・季節の行事を知る。 ・季節に応じた遊びがあることを知る。	・口頭での簡単な説明を理解し活動に参加する ・使う材料や道具の名前を知る	・手順書の簡単な言葉を読む。 ・道具の名前を知る。

個人チャート

A児の 国語科年間目標

国語科内容	国語科年間目標
(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。	・ 平仮名、片仮名で書かれた身近なものの名前を読む。
(ウ) 書くことに関する次の事項を 理解し使うこと。 ① 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	・ 視写して書字をする。
ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	・ 振り返りで接続詞を使い詳しく伝える。
オ 相手に伝わるよう、発音や声 の大きさに気を付けること。	・ 相手に伝わる声の大きさを意識して発表する。

個人チャート

A児の本單元における
国語科の内容

- ・ 簡単な説明を理解し活動に参加する。
- ・ 使う材料や道具の名前を知る
- ・ 物語のあらすじをつかむ。
- ・ 台詞を読んだり聞いたりする。
- ・ 場面に応じた台詞を考える。
- ・ 定型文に合わせて当てはまる言葉を選んで発表する。

国語科の学習



登場人物の名前を知る・書く

台詞の練習

みんなでペンきょうについて おもいだしてみよう! 月 日

① びーすげきの だいめい

びーすげき + まもて + びーす

② ででくる ひと と どうぶつは?

ひと

どうぶつ

③ かわを ながれてきた くだものは?

④ わたしの やくは です。

個人チャート

A児の 国語科年間目標

国語科内容	国語科年間目標
(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。	・ 平仮名、片仮名で書かれた身近なものの名前を読む。
(ウ) 書くことに関する次の事項を 理解し使うこと。 ① 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	・ 視写して書字をする。
ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	・ 振り返りで接続詞を使い詳しく伝える。
オ 相手に伝わるよう、発音や声 の大きさに気を付けること。	・ 相手に伝わる声の大きさを意識して発表する。

個人チャート

A児の本単元の国語
科の内容

- ・ 簡単な説明を理解し活動に参加する。
- ・ 使う材料や道具の名前を知る。
- ・ 物語のあらすじをつかむ。
- ・ 台詞を読んだり書いたりする。
- ・ 場面に応じた台詞を考える。
- ・ 定型文に合わせて当てはまる言葉を選んで発表する。

国語科の学習

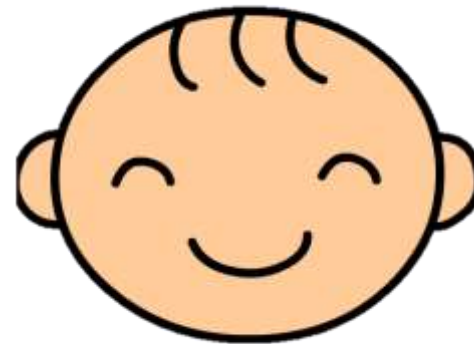
ナレーションの練習



- ・具体的に伝える。
(マイクを口まで近づける。)
- ・目安を伝える。
(録画している中に声が入っていたら○)

- ・ 演じる場面で見通しを持つことができた。

- ・ 質問に自信を持って答えることができるようになった。



劇中！

- ・物語のあらすじをつかむ。
- ・場面に応じた台詞を考える。



子ども同士の台詞のやりとり



どうぞ

そのきびだんごを
ひとつちょうだい

- ・友だちの動きをよく見るようになった。
- ・友達の動きを見て台詞を言うことができるようになった。

劇中 2



・ 場面に応じた台詞を考える。



動きのアレンジや台詞の変更

・ 桃の大きさを動作で表現できた。

・ 自分で言いやすい言い方に言い換えることができた。

個人チャート

A児の 国語科年間目標

国語科内容	国語科年間目標
(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を 知ること。	・ 平仮名、片仮名で書かれた身近なものの名前を読む。
(ウ) 書くことに関する次の事項を 理解し使うこと。 ① 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	・ 視写して書字をする。
ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	・ 振り返りで接続詞を使い詳しく伝える。
オ 相手に伝わるよう、発音や声 の大きさに気を付けること。	・ 相手に伝わる声の大きさを意識して発表する。

個人チャート

A児の本單元における
国語科の内容

- ・ 簡単な説明を理解し活動に参加する。
- ・ 使う材料や道具の名前を知る
- ・ 物語のあらすじをつかむ。
- ・ 台詞を読んだり書いたりする。
- ・ 場面に応じた台詞を考える。
- ・ 定型文に合わせて当てはまる言葉を選んで発表する。

個人での振り返り

振り返りボードを用いた。



- ・ 選択肢が広がった。
- ・ 「がんばった」だけでなく「たのしい」も選ぶようになった。

発表

事前に個別で振り返った。



- ・自信をもって発表できた。
- ・動作をつけながら発表できた。
- ・ボードにない内容を付け加えて発表できた。

子ども

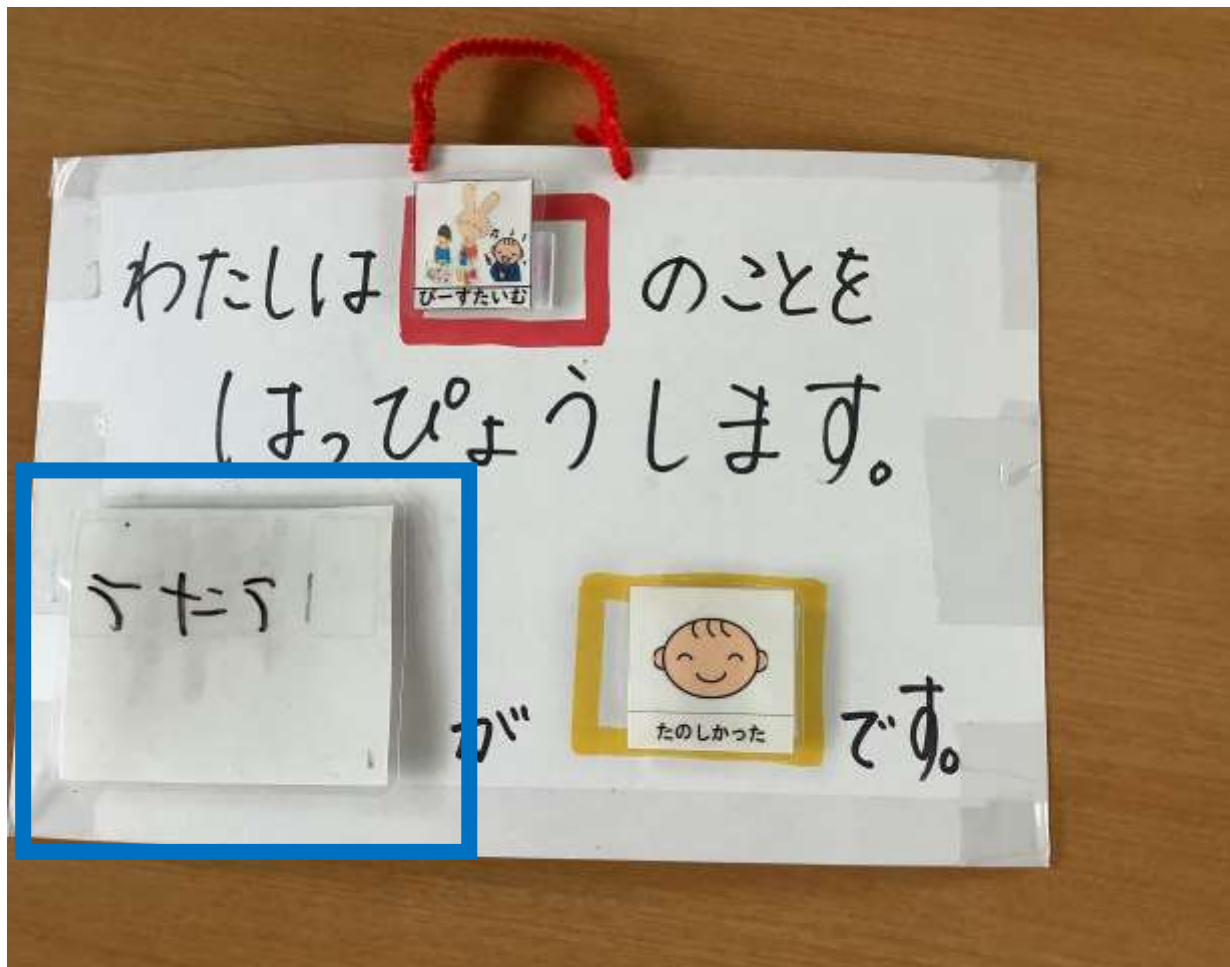
- ・自信をもって劇をしたり、振り返りを発表したりできるようになった。
- ・発言するときによく考えて言うようになった。



教師

- ・国語の学習指導要領のどの段階を扱っているのかを意識できた。
- ・声かけのタイミング、内容などをより、考えるようになった。

現在の様子



- ・発表の声が大きくなった。

- ・自分で記入するようになった。

- ・自己決定するようになってきた。

6. まとめ

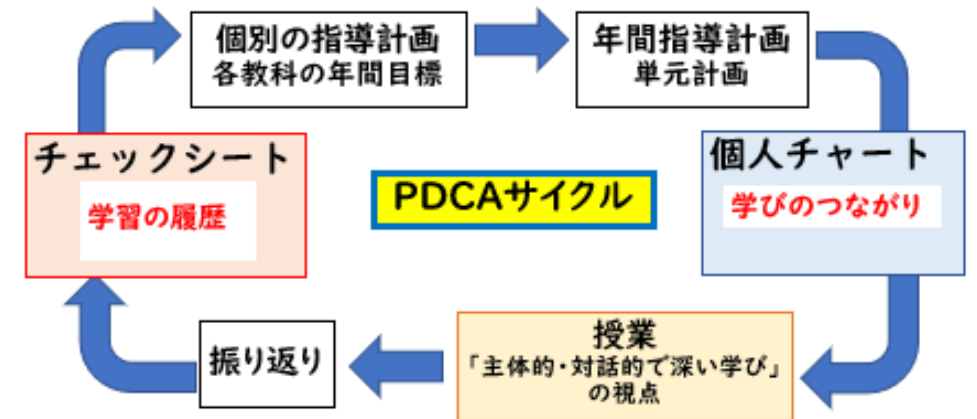
児童一人一人の学びを大切にした授業づくり

成果

- 学びをつなげる意識
- 目標に対し、取り扱う時期や内容を計画的に配置
- 授業づくりが充実
- 学校生活への学びのひろがり

課題

- ツールの改善、活用の仕方
- 子どもの学びが充実する授業の工夫

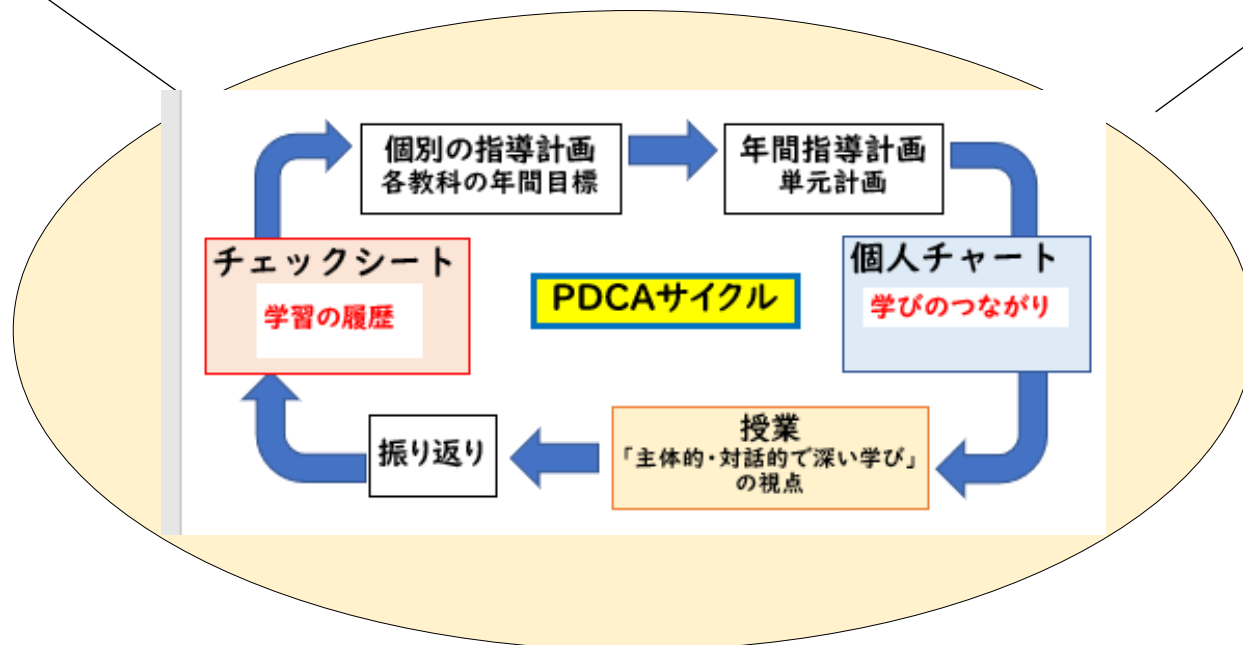


6. まとめ

児童一人一人の学びを大切にした授業づくり

児童が何を学ぶのか
児童にどのような力を育んでいくのか

主体的
対話的で
深い学び





ご静聴ありがとうございました。